

漫録

地方廳を訪れて〔三〕

一 記 者

可いのだから、東京の市内交通に費す時間の割合からすれば一都市内の交通と言つても可いだらう、だから昔に立戻してゐなかつた奈良縣、明治二十年に漸く一本立ちに爲つたのであるが、儲けるのに抜目ない明治や大正の資本家は此處舊都奈良を目的に大軌や奈良電と言ふやうな電車を敷いた。其のお蔭で京や大阪から奈良へ行くには雑作が無くなつた。實際兩都市間の交通には一時間を費さ無くつても

昔は、堺縣に吸收されたり大阪府に附いたりして、獨立してゐなかつた奈良縣、明治二十年に漸く一本立ちに爲つたのであるが、

儲けるのに拔目ない明治や大正の資本家は

此處舊都奈良を目的に大軌や奈良電と言ふやうな電車を敷いた。其のお蔭で京や大阪から奈良へ行くには雑作が無くなつた。實際兩都市間の交通には一時間を費さ無くつても

萬事が古代式な奈良だもの縣廳舍だつて昔を偲ばせるやうに出來てゐる。廳舍の屋上には鰐に好く似た鵝尾とやら言ふ魚形の瓦を使って大佛さんの屋根瓦と競争してゐるやうだ、玄關は鎌倉時代の建築様式を採つた日本建と言ふ體



裁、何でも明治二十七年頃に奈良市民の反対を排してまで奈良の三條通りを擴張した荒武者知事、古澤滋が建てたと言はれてゐる。當時は物價が安かつたので廳舍と縣會議事堂とを併せて二萬三千圓で建てた。其の内五千圓は奈良公園改良費で支辨し、警察廳舍は國庫から一部を支辨したと言はれてゐるから、縣民の負擔は一萬八千圓に足らない位である。夫れに民費多端の折柄ぢやと言つて當時反対したことをお蔭で今に爲つても改築する必要がないのは、今の奈良市民が古澤の三條通擴張を喜んで居ると同じやうに縣民も古澤に感謝して可いだらう。

○

知事石黒英彦、餘り世間には知られてゐない。内務省の連中にも石黒とは誰だつたかネーと言はれる位だ、夫れと言ふのも彼は明治四十三年帝大を出て官吏見習を文部屬に送つた勢もあらうが、大正五年内務省に這入つて來て秋田や群馬の理事官を勤めた上で殖民地生活に十六七年間も

送つたからだ。併し彼には殖民地生活をした其の素振りを
渺しも見ることが出来ない、と言ふのは彼は眞面目な男であるからだ、殖民地の官吏は内地の地方官のやうに、地方議會を相手にすることが無いので隨分威張つても役は勤まるもので、又世間も威張らして呉れる、夫れが遂に常態に爲つて官僚式になり尊大振るやうに爲る。従つて眞面目に擔任事務を研究するやうな氣には爲れない、勉強も怠ると言つた調子で折角の頭も不透明に爲るのであるが、彼には決してそう言ふやうな殖民地育ちらしい粗暴な點がない、夫れは彼を教育して呉れた寛博士のお蔭だ。

今の時代に高天原を中心として憲法を論じてゐても、生活に逐はれてゐる民衆の誰もは相手にして呉れないのであるが、夫れに依つて名を博した東大寛博士に師事した、其の事が彼石黒をして今日あらしめたのである。大正八年水野鍊太郎が朝鮮政務總監に爲つたとき、誰の世話で群馬縣理察官から朝鮮道事務官に轉じたのかは知らないが、彼が警察部長や内務局の地方課長をしてゐるとき、赤池濃の後を

襲つて丸山鶴吉が警務局長に爲つて、彼が寛博士式に眞面目なところを見抜いた、そこで丸山は當時の臺灣總督府總務長官であつた後藤文夫を説いて、石黒を文教局長に推薦し、夫れから順調に現地位を得るやうに爲つたのである。

奈良の春日か、春日の奈良か判らない程に囃されてゐる奈良だもの、高天原式の眞面目さを以てゐる彼には恰好なところには違ひない、併し餘り心にもない上手を言つてまで立巡らなければ勤まらない地方長官の商賣に、彼の性格が夫れを許すであらうかは頗る疑問だ、衆愚を相手にせなればならぬ行政官は、時には手段に虚も言はねばならぬ選出代議士には勿論縣會議員にまで上手の一つも言はねばならぬ、假令彼に夫れが出來得るにしても、逆に夫等の者と鬭争もせなればならぬ、夫れが殖民地とは違つて六ヶ敷い藝なのだ。今は餘り問題も起らないので朝鮮の虎狩の話や、臺灣のスポーツ杯の話をして問題の核心に觸れる事を避けてゐても、そんな不得要領の態度では世間が許して呉れない。政友會の連中は、ドーセ安達内相が据えた知事

だもの、不得要領で誤魔化そうとしたつて、此方は殖民地の人間ぢや無いと言つてゐる。何れ手腕の程は来る九月の選舉で拜見することが出来るであろう。

○

内務部長は早川三郎、彼は長官石黒とは違つて處世術にたけ剛軟自由に活動する。大正四年東大を出て宮崎縣に見習をやつて、其處で居振りのまゝ理事官に爲るまで約五年間も、皇祖降臨の地で辛棒したものだ。九年埼玉縣理事官に轉じて此處でも亦約五年在官したが、十四年香川縣警察部長に爲つてからは、短かい間に岡山、廣島と轉々して地方行政殊に警察行政に澤山な経験を持つやうに爲つた。

夫れに廣島縣時代には例の献策居士横山助成に可愛がられて、彼れ横山が警保局長と爲ると、其の部下の警務課長と併し横山に可愛がられたのが祟つたものか、内閣が變る現官に左遷された。併し三年出が最も多い内務部長級に

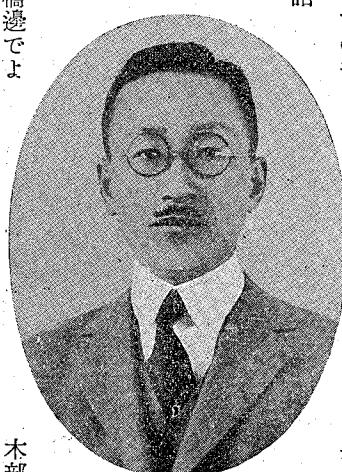
爲つたのだから餘り左遷とは言へないだらうが、本省の課長を放逐したのだからもう少し可い縣に出るのが當然だのに、奈良に向けられたのは矢張り這般の事由を斟酌した勢だらう。併し本人は例の慄巧さで今から色附けられるのを避けて露骨なことをやらない、だから彼を狡い男ぢやと言ふ人もある所以だ。併し事務官としての手腕は大丈夫だ、知事さんが虎狩の話を

をしてゐても、奈良縣政進展の爲には何等の影響も無いやうに彼は處理する。先達て紀州に通ずる道路を國道にしたのも矢張り彼の發案で知事を驚かしたと言ふことだ、

酒も大に呑む本省在勤のときも新橋邊でよく彼の顔を見たものだ。今の内閣では餘り氣を許して飲む譯には行かないだらう。夫れに高天原式知事の下では奈良の美妓を見る度數も尠くなつたであらう、で本省時代に各地に出張して習つた俗謡やら踊など忘れては惜しいもの

だ。大軌のお世話になれば大阪へは近い、南へでも行つて練習することだ、筆者が何で夫れを勧めるか、夫れは奈良に廻されたことに稽えたら餘り働いても無駄だからだ。

○



土木課長荒木榮一、彼は大正六年の東大出だが、土木課長に爲つたのは確か昭和四年であつたから新米課長の部類だ、大阪の技師から

早川 されども榮轉したときは區々に言囃三郎 よりは生むが易いとやら、今では人も許し我も信ずる立派な土木課

長に爲つた。大阪時代には元老土

木部長と言はれた大先輩牛島に氣兼ねしてゐたものか、餘りハキ／＼しない陰性な男ぢやと言はれた程だつたが、此處へ轉じてからは打つて變つたやうな人に爲つた。併し夫れが彼の本性であつたのだらう。

た。夫れは京街道の改良ニ奈良から京都へ通ずる國道を改修する計畫が定められてあつたが、東大寺や磐若寺の一部境内を潰すので、坊主が指定史蹟地であるのを理由にして改修に反対し、斯界の大文豪黒板博士やらを介して宮内省や内務省に反対の運動をしてて容易に解決しさうにもない夫れを解決することが彼の處女的な任務であつた。併し當時の知事籠井幸一郎

は又ラリ屋で一向彼の要求を无た

そうともしない、彼籠井は内務省

と文部省との喧嘩にして我不關焉

を極めたい腹であるのに、荒木は

自分の仕事として之を解決しやうと



坂と佐保川との間を改良する諒解を得て今は其の工事中であるが、此問題の爲には五六年歳をとつたと今も零してゐる位に奮闘したものだ、之で奈良縣土木課の不名を挽回した。夫れから彼は奈良から和歌山に通ずる府縣道を國道に昇格する計畫を樹て、之も易々と達成して地方民を喜ばし手段は、筆者をして立派な土木課長と言はしむる所以である。

荒木 奈良の開發には是非道路を良くする必要がある、とは彼が常に口

木 案にする所で實際其の通りである。

二 併し是迄は夫れが忘れられてゐて小さな奈良をより小さなものにし

てゐたのだ、吉野の森林の價格を左右するの來て坊主の反対には賛成出来ないと言つて廻る、其の後に知事は夫れを打破つて廻ると言つた調子、彼荒木は憤慨すること非常なものであつた。幸に籠井知事が變つて百濟文

輔が來た、彼は之を幸に極力新知事の再考を煩して、奈良

六年度の歲出三百五十八萬圓、全國で沖繩縣に次での貧

乏縣だ、土木費だつて經常部の十八萬圓と、臨時部の二十
三萬四千圓に補助費六萬圓を加へて、總額四十七萬圓氣の
毒な程度を通り越して可愛らしいやうな氣も起る。

百濟文輔の知事時代に、道路の改良計畫を樹てゝ、縣下
の國道と府縣道とを合せ延長百里を七百二十六萬圓で、昭
和三年度以降十五ヶ年で改良する計畫を樹てたが、濱口内
閣のお蔭で起債が許可されないので、豫算はあつても實行
することが出来ない、繪に畫いた餅のやうなものを眺めて
氣を休めてゐると言つた調子だ、夫れに去年は大和川平野
に出水して被害四百萬圓に達すと言はれてゐるが、其のお
蔭でイヤでも應でも、復舊工事を起さなければならぬ破目
に陥つて、二百萬圓の豫算で國庫の補助を貰つて今頻りに
工事を始めてゐる、是で幾分か道路や橋梁が良くなるにし
ても夫れは知れたものだ。何と言つても奈良を開發するの
には吉野方面に完全な陸上交通機關を設けることだが、之
も今日程木材の價値が下がつてゐるときに、其の計畫を實
行するのも無理だらうからマ一緊縮内閣の仰せに従つて春

日山あたりで居眠つてゐる方が得策であらう。

大和川平野の出水は、縣民の眼前に河川改良の必要を知
らしめたのであるが、之も西瓜の値段と工事費とを天秤に
かけて起工の利害得失を判断せねばならぬが、政府の一部
で小河川改良論が唱えられるやうに爲つてから俄に大和川
本支川の改良を八ヶ間敷言ひ出したが、夫れを支辨するが
けの財源を何から得やうとして居るのであらうか、筆者には
は其の肚の裡が判らない。

奈良公園の施設だつて、特別會計で支辨してゐるらしい
が、唯だ舊都を保存すると言ふだけで、大阪や京都邊のお
客を誘引吸收するだけの新施設をやらない、奈良公園ドラ
イブウェーなどと言つて宣傳してゐるものゝ、夫れも軌
道會社大軌のお蔭で出來上つたものだ。折角の遊覽地にあ
る客を引くだけの施設もせず、西瓜の救助策も口ばかり、吉
野連山の開發は畫餅とすりや奈良が立つて行く筈がない、
之が眞に財政の行き詰りと言ふのであらうか、夫れとも當
局が考へないのであらうか。

帝國議會に表はれた政民兩派の勢力は、政友一に對し民政四の割合に爲つてゐるが、縣政に表はれた兩派の勢力は夫れの反對に政友の二十に對し民政は十を占むるだけだ、夫れも民政の内には夫れに合同する革新の三名を加えてのことであるから、民政の縣會に於ける勢力は微々たるものだ、民政は例のドクトル、メヂチーネの八木逸郎が采配を

振つてゐるが、縣會では如何ともすることが出來ない。政友は土木請負業をやつてゐる森本千吉が支部長を勤めてゐて、此黒幕には元支部長であつた磯田四郎や代議士岩本武助が控えてゐる。是等の元老組が策動するので其の勢力は輕視する事が出來ない、先年府縣の重要な行政即ち土木や警察勸業等の仕事に委員を設けて、縣政監視の制度を探らうと自論んだ、夫れは幸に小栗知事の爲に一蹴されたにしても、是も多數を持つ強味の表はれに外ならないのだ。成る程

民政にも闘士が居て、少壯有力な辯論家も無いではないが、夫等は唯だ表面だけのことと潜勢的實力を持つて居ない。

何れの地方も同じことであるが、此處奈良にも政民兩派ともに縣政に對する主義方針と言つたやうなものがない、唯だ當面の事案に對して同一行動を探ると言つた程度の集團に過ぎない、從つて去年の縣會で見たやうに、政友會系に屬する議員どもが、親父が積極主義を強調してゐるのも考へずに、此處奈良支部では府縣に於ける人件費の節約を高調したりして珍現象を見せてゐる。

来る縣會議員の選舉は見ものだが、民政は此度こそ三分二の頭數を得ると言つてはゐる。併し政友には前にも言つたやうに老練の政治家がゐるから其の豫想通りに行くか否かは頗る疑問だ、併し政友會にしても這般の衆議院議員の選舉の場合に、服部敬一が縣會議長淺田好太郎を蹴落した苦い経験を経てゐるから決して樂觀を許さない。

和歌山の巻

和歌の浦には名所が御座る。昔から言ひ廻された土地柄だが、縣廳舍は和歌の浦ではない市内に在る勢であらうか

日本一の粗悪な廳舎だ、何でも明治十八年頃に焼けたので、當時の縣令松本鼎が再興の計畫を樹て、二十一年に完成したものの、貧相な木造建ぢや、夫れに當世流行の白蟻が見舞つてゐるので危險であるやうに傳えられてゐる。併し暫定的の補強施設がしてある想だから餘り心配が無いと言はれてゐる。贅澤な廳舎を建てることは考えものだが、何時倒れるか判らないやうな廳舎で縣政を執らることは、役人が浮腫になつて縣の爲にも餘り得策ではない、其の勢か下へかは知らないが佐竹義文知事以後一年位で知事が變つてゐる。

○
知事藏原敏捷、色々に言ひ囁かれてゐる男だ、吾々も熊本に生れたらこんな慘めな思ひをしなくともよかつた。と言ふやうな怨嗟の聲を放つ地方廳の官吏があつたら、彼も亦夫等の人に羨まれる一人たるを失は無い、成る程、彼は明治二十一年に熊本縣に生れたのは事實だ、そうして地方官を統御する安達内相と姻戚關係を持つてゐるのも事實だ

併し唯だ夫れだけで現地位を與えられたのであらうか、吟味せなければならぬ、彼は大正二年東大を出て三年大阪府警部として事務を見習ひ、五年警視に爲つて十一年東京府理事官に爲るまで約八年間大阪府の警察行政に携はつた。

東京府理事官時代に歐米に旅行したが、十二年に歸朝して千葉の警察部長と爲り、夫れから秋田、神奈川の警察部長を勤めたのであつたが、昭和二年例の喜三郎大臣の爲に醜され、夫れが現内閣の成立と同時に彼にとつては忘ることの出來ない古巣、大阪府の警察部長に復活し、五年に現官に就いたのであつて其の経験から見りや知事に爲るのも當然な順序のやうである。成る程、地方官一覽表を見るに、大正二年帝大を出た連中で知事に爲つてゐるものは、福田山梨、守屋青森、稗方秋田、土居徳島、半井佐賀、有吉宮崎と彼の七人であつて、福田、守屋、稗方と彼とが熊本生れであることが著しく人目をひくのであるが、夫れ以後の帝大出が既に知事に爲つてゐるのに稽へれば、餘り羨ましがる程の出世でもあるまい、寧ろ今の内務部長級の進

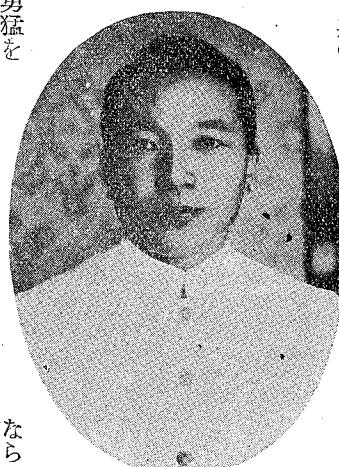
級が遅過ぎるのであらう。

彼は熊本產だけあつて勇猛果斷な男だ、人が向ばかり見て突貫する馬車馬だと評するのも矢張り其の性を言ひ表はしたのだ、従つて自己の所信は如何な犠牲を拂つても斷行する、夫人は部下に對しては勿論、野黨政友會に對しては當然、時には與黨民政黨員に對しても其の

個性を發揮する場合がある。之に胚胎して鬼藏原の綽名が生れた所以

だ、去年の冬、彼が趣味を持つ銃獵に南熊野の山奥に出かけ村民のお蔭で猪を獲つたときも、鬼藏原猪を蹴殺したと言はれたのも、彼の

勇を讃えたのではなくつて、彼の癖勇猛を笑つた言葉だ。併し彼をして此く爲らしめたのは勿論熊本縣人の特有性に依るのであるが、彼をして大學卒業後警察行政ばかりに從事せしめたことも亦重大な原因の一つに數えて可い、彼は部下の進言などに耳を藉さないで警察式の



命令を與える、言ふところ温情もなければ人情味もない、命令に對して異見でも申述ぶると呶鳴りちらす、若し彼で内務部長の職務に就て経験を持たしたならばこれ程でも無かつたであらうとは、内務省雀の言つてゐる所だが夫れ程に自己の所信に徹した男である。

成る程、所信の斷行は結構なことに違ひはない、併し私生活に就ては夫れで

とすると行政、言はゞ彼の公生活に於ては社會との調和を計ることが結構であるにしても、多衆を對象

原敏於ては社會との調和を計ることが捷肝要だ、社會の状勢を知ることは

人の言に聞き輿論に徹せなければ

ならない、彼には夫れを容るゝだけの餘裕を持たない、夫れは大阪や神奈川の警察部で飯を喰つてゐるものが總てが傳えてゐる。彼が神奈川縣警察部長を蹴られた時にも、其の當時の人事行政は鈴木内相の誤つた評價に依つたものぢやと今も貶されてゐるが、彼を蹴つたことに就

て誰一人として攻撃しなかつたのは、彼の性格や行動を社會が排してゐる表はれと言つて可い、當時の長官池田宏が彼の去るに臨んで、藏原君は馘られても思ひ残す所は無からう、と意味深長な挨拶をしたのも矢張り同じ意味を藏するのであらう。何れ内閣が變れば馘首さるゝ知事であるにしても、今の地位に在る間は此辭の修正に

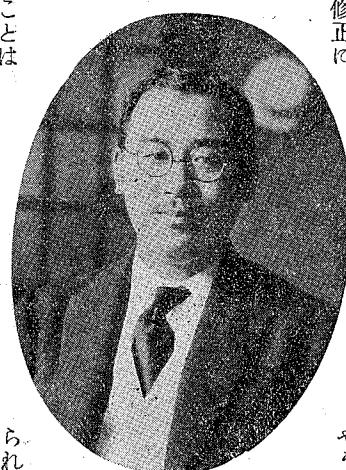
反省せなければ良二千石たる名聲を

あげ得ない、前の選舉のときに、

例の民政黨の監視員と爲つて大阪や熊本へ出た關係からすりや、政友會は憎いに違ひなからうが、和歌山縣の過半數は政友會員ぢや、餘

り無理をして御用囂振りを發揮することは彼をして大成せしむる所以では無からう。

○
内務部長は中村恒三郎、彼は長官藏原とは違つて其の型態が表はしてゐるやうに溫厚な男だ、大正五年京大英法科



中村 恒三郎
警察部長と爲つて秋田に轉じ更に福岡に轉じた、ところが警察部長は學務部長とは違つて高等政治にも參割せねばならぬ、遂に色附け

られるのであるが、彼は夫れを避けやうとする夫れが民政黨員のお氣に人らぬと言ふので福岡支部が、難癖を附けて追出しにかかりとう／＼静岡縣へ左遷されたものだ、如何に溫厚な人間でもコ一爲ると憤慨せざるを得ない、静岡では歌は茶切節、男は次郎長、と次郎長氣分を

の出身だが、在學中は隨分苦學した人だ、其のお蔭で我慾を抑制する修養をした勢であらう。大學を出ると岡山や東京で見習をして最初福島縣の郡長に出た、當時の知事は今を指導したものだ、コ一言ふ關係で彼を民政黨系川崎系のやうに人が言ふのであらう、其の後學務部長として和歌山、秋田、熊本、鳥取

發揮したか下りかは保證の限りではないが、隨分焼け酒をあふつて居たが、白根竹介が夫れを氣の毒がつて現在の地位に推薦したのである。

彼が溫厚で公平な行政をやることは、常に夫れが君の出世の妨げと爲つてゐる、夫れは福岡支部の追出し運動や秋田縣警察部長時代のことが明かに示してゐる

て、考へて見れば實に馬鹿らしいこ

とだ、併し溫厚と言ふことゝ決斷

力が鈍いと言ふことは違ふ、彼

に反対する民政黨の連中でも、露

骨に中村が公平な態度で居るから

困ると言つたやうなことは表面では

言えないから反対する人は言ひ方を換えて

彼は相當の理想も持つてゐるが、テキハキしない缺點があ

ると言つて彼を追出すのである。長官藏原のやうに勇猛果

斷でも困るが、又夫れと反対に優柔不斷も禁物である。此

處和歌山に藏原と彼とを配したのは兩者の缺點を互に相補

はじめむとした策略であらう從つて彼は藏原の勇猛などころを緩和するのが役目だが、果して長官を説服するだけの元氣があらうか、頗る疑問だ、部課長で隨分知事に悩まされてゐる者がある筈だ、其の中間緩衝地帯として女房役を發揮しなければ彼の將來は必ずしも幸福でなからう。

○

土木課長平川保一、眞面目一點

平張りの技術官だ、大正六年東大を

川出て十三年間も神奈川縣に居つて

道路技術に從事した、彼が始めて

一 和歌山の土木課長に爲つたとき

は、平川に土木課長が勤まるであ

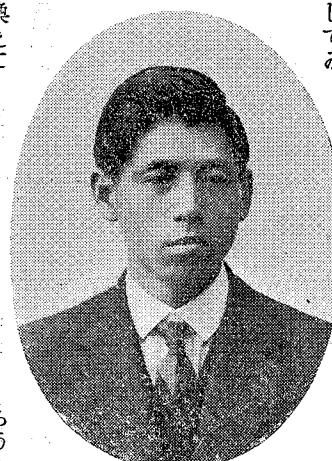
らうかなぞと蔭口を叩いたものだつたが、新任

したときは昔北海道の道路課長をやつたことのある友部泉

藏が知事をしてゐたので、意氣相投じたものか大に腕を伸

ばそうとしてゐたが、友部は醜首され後任に勇敢な藏原が

來たので彼も昔時の元氣を失つたと言はれてゐる。夫れに



縣財政が、不如意な勢か夫れとも彼が遠慮してゐるのか、兎も角爲さなければならぬ道路事業でも遅れ勝である、會々夫れを計畫しても和歌山從來の傳統を踏襲して姑息な計畫に甘じ、歐米の道路を視察して來た彼の計畫としては請け取れない點が尠くない、奈良から和歌山へ通する國道の新認定に就てゞも奈良の荒木に引きづられた感がある。之も彼が純眞な技術官として正直過ぎる程正直な美點の祟りであらうが、土木課長としては時に不徹底なことも言はねばならぬ、餘り正直に活動するのも却つて損をする場合もある、悪いことを爲しなさいと言ふ譯ではないが、二二ラス二が時には五に爲る場合もある現世に稽えて活動するこどが必要だ。

熊野地方の開發には道路の改良が急務だ、夫れに紀北選出の議員がいつも傳統的に反対してまだ改良されたものが少い、長官藏原は土木事業に就ては相當趣味を持つてゐると言はれてゐるから、其の趣味を利用して熊野地方の道路を改良することを建築することが、彼の重大な任務の一つ

である。若し其の實行を躊躇してゐると、お隣の三重縣が先手を拍つて熊野地方の物産を誘引するであらう、若し長官が夫れを容れなければ夫れまでだ、立派な技能を持ちながら何も和歌山の一小天地に蟹居してゐる必要はない、例の洋行問題から彼を我が兒のやうに可愛がつてゐる堀切善次郎あたりへ相談すりや何とか爲る筈だ、大膽に技術上の所信を斷行することが肝要であらう。

○

六年度の歲出總計四百六十六萬圓、經常部に屬する土木費が三十四萬三千圓、臨時部の夫れが三十萬九千圓、夫れに土木補助費の四萬圓を加へても土木事業費は六十九萬二千圓だけしかない譯だ、土木事業が進展しないのも無理はない。併し縣財政の方を見ると諸稅何れも制限外の課稅をしてゐるのに一方起債は百三十一萬圓もあつて、毎年五十萬圓程度償還や利子に拂はなければならぬと言つた調子だが何れの縣にも同じやうに財政は豊富とは言はれない。

夫れに將來爲すべき緊急の土木事業は山積してゐる、道

路に就て見ても前にも言つた熊野方面の府県道の改良やら奈良和歌山間の國道の改良の爲に一千二百萬圓程度の金が必要である。河川の改良にしても新宮川や西川乃至は堀川和歌川の改修も放任しておけないやうな事情にあつて、之が爲にも百六十萬圓位は要ると言はれてゐる、最も急なものは、政府のやつて居る紀ノ川の改良に關連して和歌山港を修築することだ、政府の仕事と相並んでやらなければお互に無駄な工事費を投することゝ爲るので計畫を急がなければならぬが、之には百七十萬圓程の金が必要、金は天下の廻り物にしても天から降つてくるものではない、之をドー措置するかは、来るべき縣會議員の選舉騒ぎどころの問題ぢや無い和歌山縣の盛衰に係る問題ぢやが、縣當局に於て何等の實行案を持たないのは心細い次第と言はねばならぬ。

○
此處和歌山は明治の英傑陸奥宗光が自由民權を唱えたお蔭であらうか、民衆が政治に眼醒めてゐると言はれてゐる代議士は六名の定員だが、民政四政友二の割合だ、併し例

の選舉讀本に依る黨派別得票からすると、政友二・民政一の割合だ、だから縣會議員は三十一名の定員に對し、民政系九、政友系二三二と言ふ政友會絕對多數の現状ぢや、知事が如何に官權を振舞つてもドーすることも出來ない。去年の縣會でも議案全部を未議了に終らしめたと言ふ不體裁を見てゐる、政友會の重鎮岩橋喜次郎の出身地にある實業補修學校が、餘り成績が良くないと言ふので廢止する原案を出した、政友會は之に對し極力反対し、縣當局が失業救濟事業として龍門橋の改築を提案したのに對し政友會は其の地元村長が來る縣會議員の選舉に民政黨から立候補すると言ふので其の橋の改築を廢止して、名手町の附近にある麻生橋を改築するやうに修正する、イヤ夫れは許さないと争つてゐる間に會期が終了したのであつた。此様な調子で一は權力を以て臨み他は多數を以て對抗しやうとするので、縣政の圓滿を見ることが出來ないので陸奥伯が唱えた自由民權は縣政にまで黨争せよと教えたのでは無かつ筈であらうに、此處まで運用を誤まられるのも迷惑だ。

民政黨は今のところ萎微振はないが、代議士中村啓次郎と山崎傳之助とに依つて統制され、中村は和歌山市會副議長をしてゐる志波清太郎をして萬事を執行させ、山崎は縣會議員の中井勲をして行動せしめてゐる。志波や中井が藏原知事に接近して黨勢の擴張を計つてゐる。

政友會は昔程の隆盛を見ないが、内海紡績會社の重役をしてゐる玉置吉之丞が其の財力と人格とで政友系を統制してゐる、併し縣政を紊亂せしめた所謂海草閥は、其の全盛期を通り越して今では没落の感はあるが、夫れでも大御所岡崎邦輔の命を受けて木本主一郎とか岩橋喜次郎が相當の勢力を持つてゐて、縣會の正副議長の加藤清や松尾房次郎をして黨勢の擴張を計つてゐる、昔の海草閥は全縣下の總鼻息を窺はなければ執行出來なかつた時代もあつた。縣廳の一屬吏を採用するにしても大御所の協賛を経なければ出来ない、従つて縣廳の役人は總て海草閥で固められ知事は手の附けやうも無かつた、先達て友部泉藏が馘首されたの

も之に手を下さ無かつた爲だと言はれてゐる。夫れ程に横暴を極めたものだ、併し此様の横暴が今世に永續きする筈はない、前回の代議士の選舉に海草閥の大將格木本主一郎が落選の憂目に遭つたのは、如何に反海草閥の空氣が濃厚に爲つてゐるかを窺ふことが出来る。

兩黨派に縣政に關する主義主張と言つたやうなものは無いが、矢張り道路問題と和歌山築港が兩者から叫ばれてゐる、之を解決することに依つて貧弱な和歌山を救濟することに爲るのだ、縣政だけにでも否な此問題だけに就てゞも黨争の弊を艾除して協同一致計畫を實行することが、和歌山縣永年の幸福と爲るであらう。

此様な調子だから政府與黨の連中が言つてゐるやうに、來る縣議戰には反海草閥の空氣を利用して或は民政黨が絕對多數を得るかも判らぬ。併し永年植え附けた政友の地盤は夫れ程にも弱いもので無から、假令民政が絶對多數に爲つても再び第二の海草閥を體えないやうにしなければ、再び縣政を荼毒するに至るであらう。